

学校現場に関わる方々との懇談結果について

1 津市総合教育会議懇談会

津市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱の策定に向け、教育現場における現状や課題等をしっかり把握するため、平成28年4月下旬から7月上旬にかけて津市総合教育会議懇談会を開催し、津市小中学校長会役員、現場教職員の代表、津市PTA連合会本部役員の皆様からご意見等をお聴きしました。

2 学校現場からのご意見・ご提言の概要

(1) 津市小中学校長会役員

ア 子どもたちと向き合うための時間の確保に向けて

① 土曜授業（活動）の見直し

月曜日の朝から子どもたちや教職員の元気がない。土曜授業は、ボランティア的に参加していた地域行事が勤務に位置付けられたことは評価するが、その結果、子どもたちと教職員の休み時間が減ってしまっている。

② 人的支援の充実及びその資質の向上に向けて

生きる力育成サポーター・特別支援教育支援員といった市費職員の力は大事であり、学校現場がさらに魅力的な職場となるよう時給のアップや処遇面での改善が必要である。

イ 柔軟な予算執行について

① 新規事業の翌年度以降の継続した予算化について

新規事業としてスーパー・バイザー等の費用は予算化されるものの、当該事業を継続していこうとすると予算化されない。継続は力なので、継続事業として予算化が必要である。

② 備品購入に係り学校現場で建設的な意見が言える予算執行について

今年度執行可能な予算は昨年度要望したものであり、今年度の要望は来年度に実現できるのかといった状況である。学校現場で建設的な意見を言え、柔軟な執行ができるような学校全体の枠組みの構築が必要である。

ウ 九州の震災を踏まえた学校の防災力のさらなる向上について

① さらに一歩進んだ取組について

全ての学校で一次避難への対応は可能な状況であるが、大人数や長期間の避難への対応については、さらに一歩進んだ取組が必要である。

② 児童生徒の災害時の備蓄食料品について

児童生徒の一定期間の学校待機時における学校備蓄の飲食品については、各避難者が一時的に持参することが想定される中、その取扱いについては整理が必要である。

③ 実践力ある教員に対する防災リーダーへの継続的な育成について

教員の中で実践力のある教員については、防災リーダーとして継続的な育成が必要である。

エ 関心の高い保護者への影響も視野に入れた整備について

① 年度によって学校間に極力差がつくことがない整備について

トイレやエアコンは保護者の関心も高く、年度によって学校間に極力差がつかないような整備が必要である。

② 長期的な見通しが示される施設整備について

施設整備の具体化には時間がかかり、教員の人事異動もあるため、長期的な整備の見通しを示す必要がある。また、障害者差別解消法を踏まえた整備が必要である。

(2) 現場教職員の代表

ア 子どもたちと向き合うための時間の確保に向けて

① 土曜授業（活動）の見直し

現在、年間 8 回開催しており、社会教育やクラブ活動等との日程調整が困難であるとともに、子どもたちに疲労感も見られ、教員の準備時間も必要で、それらの負担の軽減が必要である。

② 人的支援の充実及びその資質の向上に向けて

- ・ 生きる力育成サポーター

クラス担任ができるよう業務の拡大が必要である。

- ・ 特別支援教育支援員

特別な支援を必要とする子どもたちが年々増加しており、特別支援教育支援員の勤務時間延長と処遇改善が必要である。

③ 小中一貫教育に係る教員の負担感の解消

教育現場と一体となった取組が必要である。

④ クラブ活動のあり方

長時間に亘りクラブ活動に従事する教員が多く、その負担の軽減に向けた取組が必要である。

⑤ 学校事務の見直し

- ・ 校務支援システムの全校設置

現在 6 校で試行的に導入されている校務支援システムを全校へ設置することで、全市的に統一した適正な校務業務を行うとともに負担の軽減を図る。

- ・ 学校徴収金システムの一部見直し

教員の担任クラスに係る経理事務の軽減が必要である。

- ・ 教育委員会からの各種調査の合理化

調査業務の内容を精査し、近似する調査の集約など、負担の軽減が必要である。

イ 認定こども園の具体化に伴う継続した協議について

(3) 津市 P T A 連合会本部役員

ア 子どもたちと向き合うための時間の確保に向けて

① 活動状況に差があるクラブ活動のあり方の整理

クラブ活動に多くの時間を注ぐ教員が保護者から評価される一方、多くの時間を注げない教員が評価されない状況がある。多くの時間を注げない教員も、他の教育活動と調整し、一生懸命クラブ活動をされていると思う。難しいことではあるが、クラブ活動のあり方の整理が必要である。

イ 最大クラスの地震を想定したさらなる避難への対応

① さらに一歩進んだ取組について

学校においては、一次避難への対応は可能な状況であるが、大人数や長期間の避難への対応については、さらに一歩進んだ取組が必要である。

② 地域・家庭・学校が連携した避難への対応

臨海部では津波への対応など、地域の特性を踏まえ、地域・家庭・学校が連携した避難への対応マニュアル等の整理が必要である。

ウ 地域とともにある学校

① 家庭学習を支援するための地域主体のナイトスクールの充実

- ・ 今年度もナイトスクールが開所されたが、その運営においては、継続的に人材や場所とともに資金も確保していく必要があり、財政的な支援が必要である。
- ・ 今後新たにナイトスクールを立ち上げたいと考えているが、人材の確保に苦慮している。教員OBなどの人材を紹介していただければありがたい。

② 様々な地域から通学する学校（津市立小中学校以外の学校）における地域連携について

様々な地域から通学する学校においては、どうしても地域との連携が弱く、防災面など、地域との連携が課題である。

エ 義務教育学校と認定こども園

① 義務教育学校

現在、美里地域において、津市立みさとの丘学園（義務教育学校）の開校に向けた準備が進められているが、今後、このような種類の学校の市域での展開の方向性に関心を持っている。

② 認定こども園

幼稚園では保護者の方はPTAに加入いただいており、保育園では保護者会が組織されているとお聞きしている。今後、幼稚園と保育園が一緒になる認定こども園では、PTAと保護者会がどのようになるのかに関心を持っている。